大学院国際マネジメント研究科 博士後期研究指導教員　　資格審査

国際総合科学系部会報告書

国際総合科学群長（部会長）●●　●●

令和　年　月開催

メンバー：（役職名で記載）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | 担当科目 | 所属・職 | 資格審査WG |
| ●●　●●  （歳） | 研究指導Ⅰ～Ⅳ | ●●●研究科・准教授 | ●●教授(座長)、●●教授、●●教授、●●教授 |
| 審査結果 | ●●研究科のWG資格審査および教授会での審査結果を受け、令和2年3月開催の国際総合科学系部会で審査した結果、●●氏は●●研究科の博士後期課程研究指導教員として適格であるとの結論に達した。 | | |
| 内容 | ●●研究科におけるWG資格審査結果  「●●准教授は、学部教育については、●●年に本学に赴任直後から継続して演習を担当し、専門の●●に加え、多くの共通教養科目も担当し、広く教養教育にも携わっており、学生の授業評価アンケートにおいても高い評価（満足と回答した学生が６割以上）を得ている。大学院においては、主指導教員としてこれまで７名の博士前期課程学生・研究生を指導し、修了した全員の研究成果は学術誌に掲載（英文査読誌３報を含む）もしくは英文査読誌へ投稿準備中となっているなど、教育成果の見える化を実践している。  研究実績については、過去10年間に査読付き国際学術誌に６報、その他学術誌に６報、合計12報が掲載済みもしくは掲載決定がされており、全12報のうち７報は英語で書かれている。加えて、海外学会や国内学会にて英語での学会報告を毎年行うなど、研究成果の国際的な発信を果たしている。外部資金は、科研費若手研究を３回、基盤研究(C)を研究代表者として受けるなど、2010年度以降、ほぼ切れ目なく獲得している。  以上のように、●●准教授の研究・教育活動は優れており、大学院●●研究科博士後期課程研究指導教員としての資格を十分満たしている。」  ●●研究科会議の審査結果報告を受け、国際総合科学系部会で審査を行った。●●教授の研究および教育におけるアクティビティから判断して、大学院●●研究科博士後期課程研究指導教員としての資格を十分満たしていることを満場一致で結論した。 | | |